

【テーマ】

「被災後に耐力劣化した部材の補修方法に関する研究動向と性能設計」

【趣旨】

現行の建築基準法で最低限求められている耐震性能は、人命を保護することにある。地震時に建築物の損傷をある程度許容しており、近年の大地震の度に多くの建物被害の発生している。現在は、余震等の建物倒壊の防止もさることながら、地震後の経済活動を継続して行うことが必要であり、そのためには建物の早期補修・応急復旧が求められる。構造の研究動向では、建築物の耐震性能を向上させる建築部材に対して行う補強開発は多く行われているが、一度被災した建築物を耐震性能まで原状回復させる補修に関する研究報告は最近始まったばかりであると思われる。そこで本シンポジウムでは、建物の補修方法に関する研究と設計について現状と今後について議論する。

主 催 : 東海支部構造委員会

日 時 : 2026 年 2 月 23 日(月) 14:30~16:30

会 場 : 名城大学 共通講義棟東

進 行 : 薩川 恵一(愛知工業大学)

記 録 : 巽 信彦 (愛知工業大学)

プログラム: 支部長挨拶 14:30~14:35

飛田 潤 氏(名古屋大学)

趣旨説明 14:35~14:40

薩川 恵一 氏(愛知工業大学)

「建築部材の損傷と性能設計(仮)」 14:40~15:10

木村 征也 氏 平井 健 氏 (日建設計東京)

「座屈により耐力低下した梁部材の補修方法の開発(仮)」 15:10~15:30

三井 和也 氏(東京科学大学)

「ターンバックルブレースの締め直しによる被災後補修法(仮)」 15:30~15:50

仲田 章太郎氏(豊橋技術科学大学)

「部材の補修方法に有用な解析手法の紹介(仮)」 15:50~16:00

木藤 一輝 氏(豊田工業高等専門学校)

<小休憩>

16:00~16:10

本発表について質疑

16:10~16:25

上記発表者委員ほか

総括

16:20~16:30